HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	教育・就労と車いす
Author(s)	吉田, 三千代
Citation	地域経済経営ネットワーク研究センター年報, 11, 17-22
Issue Date	2022-03-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/84789
Type	departmental bulletin paper
File Information	040REBN_11_017.pdf



Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

地域経済経営ネットワーク研究センター年報　第 11 号
北海道大学　2022. 3

＜講　演＞

教育・就労と車いす

吉田　三千代
特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会　代表理事

皆様，こんばんは。「飛んでけ！車いす」の会，吉田三千代と申します。

今日は，JICA の草の根支援でうかがったインドネシアのバリ島をテーマにして，「教育・就労と車いす」というタイトルでお話を進めていきたいと思いますので，よろしくお願いします。

「飛んでけ！車いす」の会の活動

最初に，「飛んでけ！車いす」の会の活動を紹介します。

「飛んでけ！車いす」の会の活動は，日本で使われなくなった車いすを丁寧に修理して，それを一台ずつ旅行者が海外に届けるという活動です。これは SDGs の 12 番の「つくる責任　つかう責任」というところに大きく関わっていますし，それ以外のことにも関わっていますので，少々お聞きください。



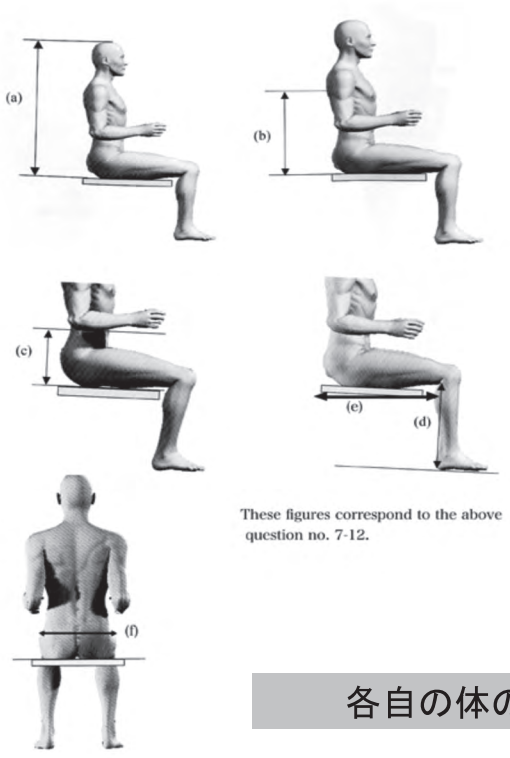
図 1

これはスリランカのラピンドー君という青年で，車いすを受け取って，本当に体じゅうで喜びを表しているところです（**図 1**）。届けてくださった方が左のほうにいらっしゃいますが，よい体験をされたのではないかと思います。活動は，このように国内で使われなくなった車いすを収集し，ボランティアが整備・清掃して，旅行者が旅行のついでに国外の利用者にお届けするという活動です。

皆さん，車いすというのは使われなくなったらどうなると思いますか。想像できる方が多いかと思いますが，80％も捨てられてしまうそうなのです。とても資源の無駄遣い，もったいないと思います。例えば札幌市では，年間約 500 台の車いすが「ごみ」というシールを貼られて捨てられてしまうそうなのです。そういうことも，今後，札幌市とも連携できたら，車いすの再利用ということもさらに進むかもしれないと思っています。

車いすは，預け入れ手荷物という形で旅行者と一緒に旅立ちます。これは私たちの活動の特徴で（**図 2**），このシートを今度使われる方の体のサイズや特徴を聞くために使用しています。この情報に基づいて，私たちがもっているデータベースを元に，利用者の体に合った車いすをそこから選んでいます。こういう手間をかけて，「あなたへの車いすです」ということで，受け取った方が，体に合って乗りやすく，安全に使えるということで喜んでいただけるという，そうした特徴が私たちの会にはあります。

大体 100 台ぐらいの車いすを在庫していま



To Select the Most Suitable Wheelchair

You may find the following form very precise, but it is necessary for us to choose a suitable wheelchair for the recipient(s) of your organization. Your cooperation and patience will be much appreciated when you fill in the form. It is advisable to refer to the sizing chart when you fulfill question no. 7-12. Even if your information is limited, please respond to the best of your knowledge. Thank you.

Please give us following information.

1	Name
2	Adult or Children (Age?)
3	Gender
4	What is his/her disease or disorder? (If you know)
5	Height: (cm)
6	Weight: (kg)
7	(a) Sitting height (cm)
8	(b) Arm-pit height, sitting (cm)
9	(c) Elbow height, sitting (cm)
10	(d) Lower leg length, sitting (cm)
11	(e) Buttock-calf length, sitting (cm)
12	(f) Hip breadth, sitting (cm)
13	Can he/she keep sitting without any support?
14	Can he/she move him/herself using their upper body/arms in sitting position?
15	Can he/she use both arms? (ex. eating or writing)
16	Can he/she lift a large object (3kg weight)?
17	Can he/she can drive a wheelchair by him/herself?
18	Other Special Remarks of his/her body
19	Indoor and/or Outdoor use?
20	Special requirements for the wheelchair (If any)
21	How will the wheelchair change or affect his/her life? (ex. He can go to school, etc.)
22	Where should the bearer(s) hand over the wheelchair? (office or home?)

各自の体の情報をもらい車いすを選ぶ

"Go! Fly! Wheelchairs"　Tel/Fax +81-11-242-8171　E-mail: tondeke@bz01.plala.or.jp　URL: http://tondeke.org/

図 2

す。そして，部品も丁寧に区分けし，もう一回使えないか，取り替え用にできないかなど考えて使用しています。これをする整備ボランティアが 10 人以上いるのですが，大体もう 70 歳ぐらいのシニアになってしまいました。でも，シニアの知恵や技術を使って丁寧な整備をして，新品同様にして送り出すということも私たちの会の特徴です。23 年半やっていますが，それぐらいやっていると結構たくさんの車いすが飛んでいくのですけれども，私どもは数よりも，むしろ 1 台 1 台丁寧にお届けするということを目的にしています。WHO の統計では，2015 年に，世界中で車いすを待っている方が 7,000 万人もいらっしゃるということで，私たちがやっていることは大河の一滴にすぎません。残念ながら，世界では紛争があったり，内戦があったり，もっともっと車いすが必要だと思います。

これは，「飛んでけ！車いす」の会と SDGs の関係を表にしてみたものです（**図 3**）。例えば廃棄物の再利用は今お話ししましたが，そこはこの 12 番目の「つくる責任　つかう責任」の 5 に当たるというような形で，こういうように表示をしています。この後の時間は，車いす

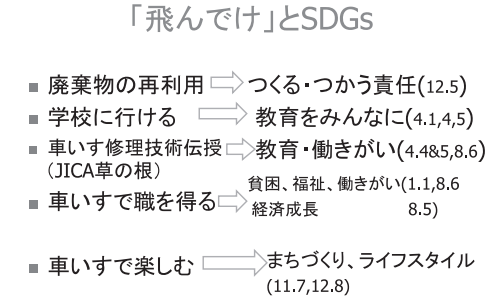


図 3

を使って学校に行けるようにすること，車いすの修理技術を伝授すること，車いすで職を得られるようにすること，車いすで楽しむこと，そういうようなことがそれぞれ SDGs につながっているというようなお話をしていきたいと思います。

インドネシアでの取組１ ー教育ー

まず，教育のことですが，これはカルメン君という，もう 20 歳近くになるのだと思いますが，最初にカルメン君と会ったのは，彼が 7 歳のときでした（**図 4**）。この最初の車いすは私が届けました。この車いすは本当にぼろになってしまっているのですが，彼は JICA でおこなった整備講座に参加して，外側はあまりきれいではありませんが，中は丁寧に整備して，大事に取ってあります。というのは，やはり車いすは障害のある方にとっては足なのです。体の一部なのです。ですから，もし使っているものが壊れた場合，余分にもう 1 台ということで，そのように整備をして大事に取ってあります。図 4 の上の写真が，新しい車いすが届いて，喜んで乗り移っているところの写真です。カルメン君についてですが，英語で質問したら英語できちっと返してくれる。日常会話も英語で十分できます。彼は 6 歳のときに，骨形成不全症という体が大きくならない病気と診断されました。診断前は田舎に住んでいて，はったり，歩行器を使いながら楽しく過ごしていたそうです。ただ，やはり友人たちの手を煩わせないと一緒に遊べないので，恥ずかしさがあったといっていました。初めての車いすがきたのが 7 歳のときで，それまではご両親などが抱えて学校に連れていったのだと思います。インドネシアは養護学校とか特殊学級はまだ発達していないので，普通学校に行くしかないのです。彼が「Wheelchair is My hero」と書いてきたのですが，本当に彼にとっては車いすがとてもとても大切なものなのだと思います。カルメン君は高等学校まで行って，そして簿記の勉強，それから IT 関連の知識を身につけました。とても頭のいい学生です。今は障害者団体の事務局長として仕事をしていて，障害者の方の相談に乗ったりするカウンセリングの仕事もしているそうです。後で出てきますが，バリ舞踊，音楽演奏，スポーツも大好きです。彼の夢は，大学に進学すること，それから車いすで世界を見て知見を広げることと書いてくれました。

これはカルメン君が働いている様子なのですが（**図 5**），JICA の草の根支援で 4 回目のときに，コロナで私たちが渡航できなくなり，向こうの方たちで整備講座をやってもらうことになって，そのスタッフとしてカルメン君は活躍してくれました。会議に出たり，資料の準備を



図 4



図 5



図 6

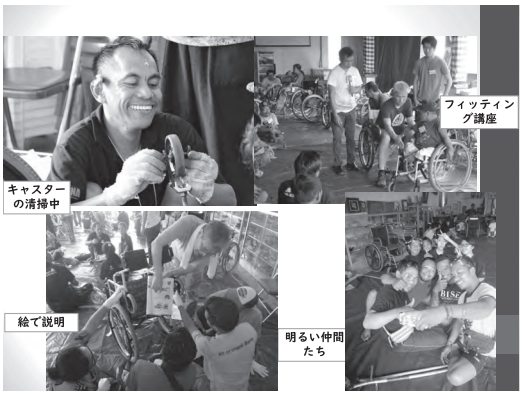


図 7

したり，得意なパソコンを使って仕事をしてくれています。

これは教育のおまけのような話なのですが，障害者というのは教育を受けずに成長することが多いのです。左上は，草の根支援でカウンターパートだったセナン・ハティ財団[1)]というところがある建物で，外務省の ODA で造られたとても立派な建物です（**図 6**）。その下が教室です。ABC から始めます。現地のボランティアの方が英語を教えています。バリ島は観光の島で，やはり英語ができないとなかなか仕事にも就けないなど，いろいろなことがあるので，英語はとても大事にされています。また足し算，引き算とか，初等教育も行われています。パソコンの教室も別にありました。ここではそういう実用的なことを身につけることができます。

次は，JICA の草の根支援で行った整備講座の様子をお知らせします。

上記でふれたようにカウンターパートがセナン・ハティ財団というところで，そこの建物の吹き抜けのようになっている，ふだんはレストランに使われるところにブルーシートを敷いて行いました。気温は 35 度ぐらいになることもあって，北海道出身の整備シニアにとってはかなり過酷な毎日でもありました。

講座は，このように車いすから降りて（**図 7**），ふだん松葉杖を使っている方もいるのですが，皆こうやって下に座って行う形を取りました。整備は，キャスターを掃除したり，パンク直しとか，いろいろな工程があるのですが，それ以外に日本的ですが整理・整頓というようなこともお教えしたり，体に合わせた車いすというのはとても大事なので，フィッティングの講座も行いました。これは，フィッティングの専門家が一緒に行ってくれたので行うことができました。バリの方たちはとても陽気で明るい方たちが多くて，いつも笑い声が絶えず，楽しい講座をすることができました。

先ほども少しお話ししたように，4 回渡航して行うはずだったのですが，コロナの影響で 4 回目は行けなくなりました。ただ，3 回目のときから整備技術が高い人向けの上級クラスを設けて，トレーナーの養成をしておりましたので，それが役立って，4 回目は現地の 3 人のトレーナーを中心に整備講習を行うことができました。みんな足は不自由で，車いすも併用している方々なのですが，ここではみなさんが丁寧に教えてくれました。私どもは YouTube で車いすの整備動画をインドネシア語で作ったり，マニュアルもインドネシア語で作ったりしましたので，そういうことも大変活用していただきこういう講座ができました。こうしたことが持続可能に繋がったのではないかと思っていま

1）バリ州にある障害者を支援する非営利団体。

す。

整備講座の最終回にはインドネシア語の修了証書を皆さんに差し上げるのですが，結果としては修了者 62 名のうち女性が 17 名，障害の程度は様々です。講座の内容は，車いすの整備が初心者，初級から上級というふうに 3 つぐらいに分かれています。整理・整頓は皆さんにお話ししました。縫製というのは，車いすの座席とか背に当たる部分を作ったり，直したりすることなのですが，そのようなことを行いました。

このように，とにかく明るくて，車いすの方，普段は車いすを使わないけれども何かのときに使う方，それから，女性，若い方，年配の方もということで，「ごちゃ混ぜ」という言葉を私はよく使うのですけれども，この「ごちゃ混ぜ」というのが私は好きで，バリに行くとごちゃ混ぜ感がいっぱいで，そして，今は多様性という言葉を使うのかもしれませんが，こういうことを体験できたのはとても財産になりました。

インドネシアでの取組 2 ー就労ー

それでは，就労のほうに移ります。

カウンターパートのセナン・ハティ財団では，レストラン事業をやっています。このレストラン事業では，車いすの方，知的障害の方も調理場におりました。そういう方が料理を作り，お客さんを出迎えるために体の不自由な方たちがバリ音楽を演奏して，お客さんは左側にあるように大型バスで下のほうの道路に着いて（**図 8**），上がってこられるわけです。そして，車いすの整備講座をひらいていたところがレストランになって，そこでビュッフェ形式の料理を食べる。そして，セナン・ハティの活動自体もスライドにして説明して，お土産屋さんも横にあるので，そこでショッピングをしてもらう。そういうことで資金の一部をつくり出しています。これは，バリの特徴でもあるのですが，バリ絵画とか木彫は小さいときからみんな教えられるそうなのです。左側はジェイピーさんという方ですが，車いすの整備にも参加されたとても器用な方で，彼もコンクールで賞を取っているような，とてもすてきな画家さんです。右上の女性は，バリ絵画の一つ細密画という，とても細かい絵のグリーティングカードを作って，それを売って生計を立てているということで，1 枚 300 円ぐらいなのですが，1 枚作るのに 3 時間ぐらいはかかると聞きました。下はバリックさんという方ですが，この方も整備講座に参加していました。ふだんは床屋さんをしているということです。それが，何と YouTube で独学し，確か 50 円とか安い値段で売っているのですが，お客さんは次々次々来ていました。繁盛しているのかなと思いました（**図 9**）。



図 8



図 9



図 10

また，車いすで楽しむということも大切で，先ほどのカルメン君が化粧をすると，こんなにすてきな若者になります（**図 10**）。彼はとても踊りも好きで，音楽も好きで，上の写真はジャンベというアフリカの太鼓なのですけれども，その太鼓をたたいたりしています。車いすマラソンもあります。バリマラソンというのが 9 月にあるのですが，一般のマラソン以外に車いすの部があるのです。日本の場合はマラソン用の車いすで皆さんすごく速く走られるのですが，ここでは自分たちがいつも乗っている車いすで，特別なものではありません。でも，メダルがかかっているので，みな必死です。

バリは，祈りの島とも言われています。バリ・ヒンドゥーという宗教の下で，お祭りがとても多い島なのです。お祭りに当たったら整備講習もままならない，そういうジレンマもありましたけれど，皆さんとても信心深くて，整備講習前には障害の方も含めて一緒に参加し，一心に祈りを捧げていました。

最後になりますが，私たちのビジョンは「私たちは障害や国境の垣根を越え，誰もがその人らしく生きる社会の実現を目指します。」です。これは SDGs の目指しているものと共通するところがあるのではないかと思っております。

簡単ですけれども，以上です。皆さん，ご静聴ありがとうございました。